



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 53

PROFILE

1967年新潟県出身。東京女子大学卒業・NYフォード大学留学・事業創造大学院大学修了。現在は「ひるおび!」(TBS)、「ウェークアップ! ぶらす」(読売テレビ)などのメディアでコメンテーターとして活躍中。事業創造大学院大学客員教授。国際貢献やエネルギー関係にも見識があり、国の委員も務めている。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」メンバー。

インドネシアといえば、海がきれいなリゾート。2004年にスマトラ島沖大地震・インド洋津波が発生するまで、そう思っていました。でも、そのイメージは一気に崩れました。津波が村々を飲み込んでいく映像は衝撃的で、自然災害の恐ろしさを実感したのを覚えています。

日本もインドネシアと同様に、多くの自然災害に見舞われてきました。そこで得た経験を生かし、インドネシアをはじめとした開発途上国で防災対策に取り組んでいるとのこと。日本での経験や知見が同じく災害多発国であるインドネシアにどう生かされ、また日本にフィードバックされているのか、しっかりとこの目で確かめたいと思いました。

訪れたのはインドネシアで最も活動が活発な活火山の一つ、メラピ山。日本が古くから建設に協力してきた砂防ダムでさえ、想定を上回る土石流によって被害を受けたこともあったそうです。そこで日本が取り入れたのが、流出した土砂を受け止めるサンドポケット。そのおかげで、下流に住む人たちの多くの命が救われたことを知り

国際協力で日本の企業も元気に

伊藤 聡子

フリーキャスター・事業創造大学院大学客員教授

ITO Satoko



ました。その技術は雲仙普賢岳周辺の砂防対策にも生かされていると聞き、国際協力の経験が日本にも返ってきているのだと思いました。

メラピ山周辺の村でのラジオ局の取り組みも印象的でした。その地域で放送されていたのは、メラピ山の状況や被災者の体験談など防災に関する情報。そのノウハウを伝えているのが、神戸市長田区の多文化コミュニティ放送局です。阪神・淡路大震災の時、外国人が言葉が通じなくて困ったという経験がきっかけとなり立ち上がったそうで、「インフラが整備されておらず、識字率が低い途上国にでも、誰もが分かるような形で防災の意識を広めたい」という担当者の方の言葉が心に残っています。災害報道はその時々で状況が変わり、自分で判断して行動しなければならない。地元根付いた人と協力しながら災害を意識していくコミュニティの力がどれだけ大事か、学ばせてもらった気がしました。

そして最後は、日本人にも人気の観光地バリ島へ。ここでは、土石流が多発する地域で、土壌の保護や緑化のため、山口県

の企業が挑戦を続けてきました。彼らが日本で開発し、インドネシアでも導入しようとしているのが、地面に敷くだけで侵食を抑え、植物の生育を促進するシート。自然と共存した取り組みで、現地の素材を使うことでコストを抑える工夫をしているのも素晴らしいと思いました。

そして何よりも、現地の日本人スタッフの方が明るくて前向きに仕事に取り組んでいる姿に感動しました。これからの時代、世界で通用する人材を育てることは、日本企業にとって大きな課題です。

途上国に進出する日本企業が増えれば、現地の人たちの生活が改善されるだけでなく、企業側にもたくさんのものが返ってくるはず。独自の技術を持った中小企業に、ぜひ挑戦してほしいと思います。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

なんとかしなきゃ で 検索